



講談で語る 男女共同参画！

男女共同参画社会の実現を目的に、市の男女共同参画基礎講座「講談で語る男女共同参画 宝井琴桜講演会」が、12月2日に白岩の本宮市産業センターで開かれました。女性で初めて真打に昇進した講談師の宝井琴桜さんを迎えて、「山下さんちの物語～子育て参画編～」の演題で、家庭だけではなく地域社会で男女共同参画を推進し、お父さんやお母さんの考え方が変わっていく様を、男女共同参画社会基本法を交えながら、講談により分かりやすく楽しく話していただきました。



お料理は 楽しいね！



良い食習慣を身につけ、健康なからだをつくるための「食育」の大切さが、今話題になっています。親子で楽しく料理を作り、食育を体験する「おやこの食育教室」が、12月2日中央公民館で行われました。市内の小学生と保護者あわせて32名が参加し、市食生活改善推進員や市ヘルスセンターの皆さんのお手伝いをいただきながら、スープカレーと水菜サラダ、デザートのフルーツラッキーを作りました。

参加した子どもたちは「お母さん、お父さんと作った料理はとてもおいしい」と、何杯もおかわりしていました。



佐藤市長から賀寿の記念品を受ける遠藤サクさん

鈴木悦雄生活福祉部長から賀寿の記念品を受ける國分ヨシさん

白岩小学校6年生で組織する緑の少年団（団長・児島和樹さん）の収穫祭は12月4日同校で行われ、保護者の皆さんらも参加して餅つきなどが行われました。収穫祭は、子どもたちが春から丹精込めて育ててきた稻から収穫された餅米や古代米でお餅を作り、自然の恵みに感謝するものとして行われました。子どもたちは、地域の酒井菊雄さんの協力をいたしました。餅つきも、昔ながらの農法により稻作りを体験してきました。できあがったお餅は雑煮やきなこ餅にしておいしくいただき、全校生徒にも配られました。

自然の恵みに感謝！

ご長寿おめでとうございます！

く3人が百歳賀寿く

昨年11月25日から12月14日にかけて3人の方が百歳賀寿を迎えられました。賀寿のお祝いには佐藤嘉重市長ら多くの方々が訪れ、色紙や花束などの記念品が贈られました。お元気で、これからも命の限りしつかり生きていたいと語られました。長生きの秘訣は、小さなことにはじめられないことと話しています。

遠藤サクさん（糠沢字作東）は、12月6日に百歳を迎えられました。賀寿のお祝いは、12月9日に自宅で行われました。長生きの秘訣は、12月14日に百歳を迎えた。賀寿のお祝いは、この日に特別養護老人ホーム「ぼたん荘」で行われました。気持ちを強くもって生きることが、長寿の秘訣だそうです。皆さん、これからも元気でお過ごしください。



佐藤市長から賀寿の記念品を受けた眞壁ユキさん

89歳で初めての個展見事な日本画です！



伊豆ヨシ・和子絵画展が11月10日から12日までの3日間、本宮駅前のモコステーションで開催されました。伊豆ヨシさん（本宮字荒町）は89歳ですが、見事な日本画の出来栄えに訪れた市民の皆さんは感嘆の声をあげていました。伊豆さんは、デイサービスに通ううちに絵に興味を持ち、70代後半から絵を描き始めました。市内の福本雪洲先生に手ほどきを受け、見る見るうちに上達。友人に勧められ、今回初めて個展を開いたのです。

また、ヨシさんの二女和子さんも、イラスト画やデザイン画を同時に展示しました。これまでコンクールなどの入賞経験がある和子さんが描いた繊細なイラスト画も、個展に華を添えました。



ふるさと稲沢再発見！ ～第6回稲沢ふれあいまつり～



▲稲沢ふれあいまつりのメインイベント「とろろ飯早食い大会」。会場からは盛んな声援が送られました。



カメラ散歩 ～まちのホットな話題～

「カメラ散歩」では、皆さんの「ホットで楽しい」話題を掲載しています。皆さんからの情報もお待ちしています。

秘書広報課広報広聴係 ☎33-1111(内線223)

本宮市戦没者追悼式が、11月15日に中央公民館で行われました。忘れ去られつつある悲惨な歴史的事実を風化させることなく後世に伝え、悲しみの歴史を繰り返さないために、恒久平和を願つて毎年行われています。今も、世界の一部地域では紛争などが起っています。このようない報道がされるたびに、多くの皆さんのが不安を感じています。私たちみんなが、平和の大切さや命の尊さを考えることで、世界平和に努めていきましょう。

世界平和を願い

本宮市戦没者追悼式が、11月15日に中央公民館で行われました。

忘れ去られつつある悲惨な歴史的事実を風化させることなく後世に伝え、悲しみの歴史を繰り返さないために、恒久平和を願つて毎年行われています。

今も、世界の一部地域では紛争などが起っています。このようない報道がされるたびに、多くの皆さんのが不安を感じています。私たちみんなが、平和の大切さや命の尊さを考えることで、世界平和に努めていきましょう。